
AGPグループ 2015年度決算発表 & 中期経営計画の進捗状況



空を想い、技術を極め、環境社会を創る。

2016.5.24

本日お話しさせていただくこと



会社概要	p3
2015年度 業績	p19
2016年度 業績予想	p29
中期経営計画(FY15~19)進捗状況	p36
(参考資料)	p41

会社概要

概要



- ◆ 商号 株式会社エージーピー／AGP CORPORATION
AGP (Airport Ground Power)
(日本空港動力株式会社から商号変更：2000年9月1日)
- ◆ 設立 1965年12月
- ◆ 本社 東京都大田区羽田空港一丁目7番1号
空港施設第2総合ビル
- ◆ 資本金 20億3,875万円
- ◆ 主要株主 日本航空株式会社 (33.3%) 三菱商事株式会社 (26.8%)
ANAホールディングス株式会社 (20.0%)
- ◆ 従業員数 622名 (グループ合計2016年3月31日現在)
- ◆ 空港拠点 3支社、5支店、2出張所
成田空港、羽田空港、関西空港、新千歳空港、中部空港、
大阪空港、福岡空港、那覇空港、神戸空港、広島空港

企業理念

AGPグループは、技術力を極め、環境社会に貢献します。

- ・ 環境に優しく、安全で豊かな社会の実現に貢献します
- ・ お客様に選ばれる技術・サービスを誠実に提供し企業価値を高めます
- ・ 燃える挑戦心を持った社員とともに成長します

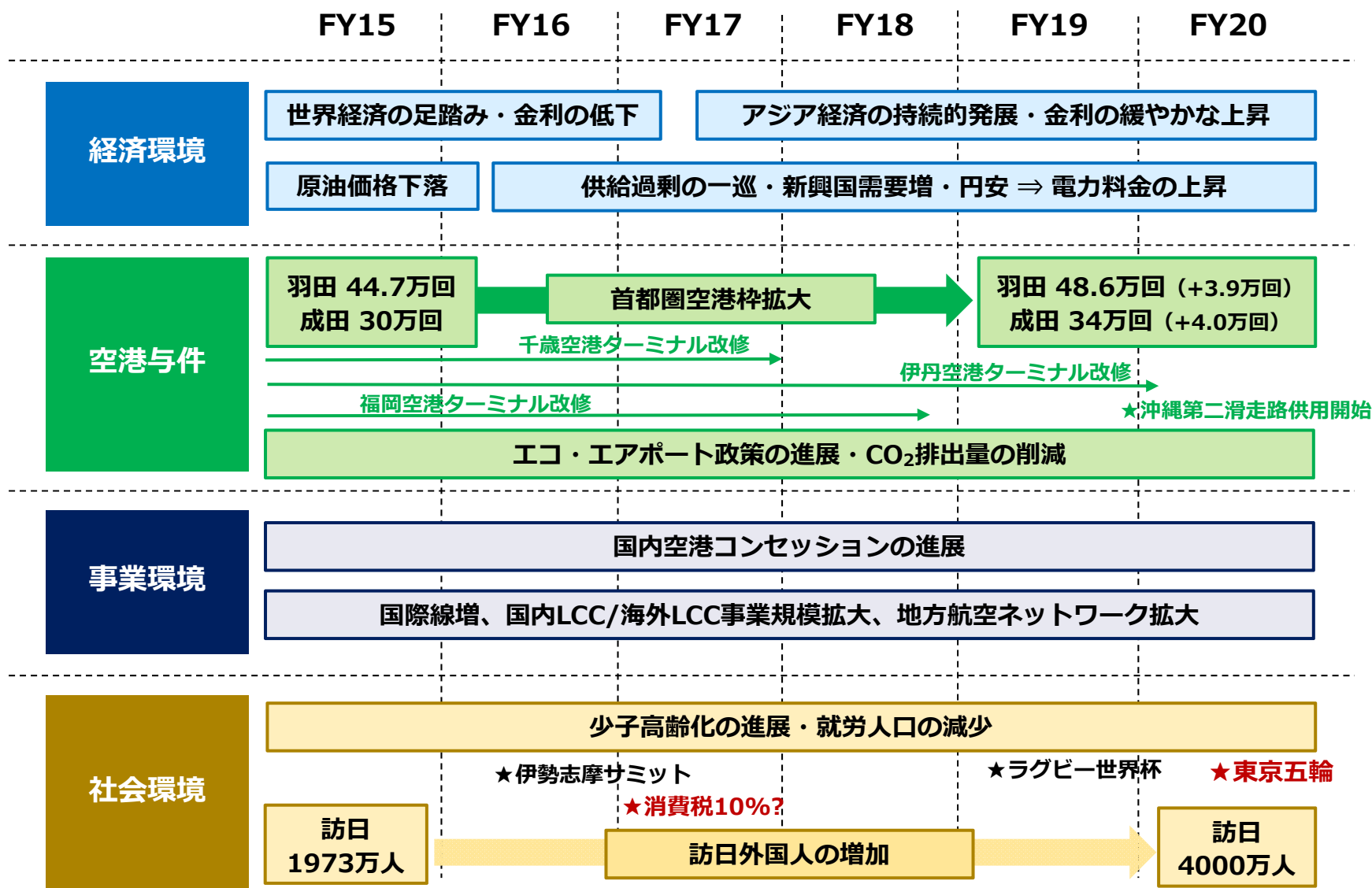
長期ビジョン2025(骨子)

AGPグループは、高い技術力と環境社会への貢献によって、空港インフラ機能を担う信頼される企業になるとともに、空港の安全を守るために培われた技術を日本中の街へ、さらには海外へとお届けします。これにより、今後10年間で

- ・ 売上200億円、営業利益率10%以上を安定的に達成できる企業になります
- ・ 空港外の売上比率3割以上を目指します
- ・ エコ・エアポートの実現を通してGPU利用を促進することにより、主要空港のCO₂排出量を13.5万トン削減し、地球の温暖化防止に貢献します

(注) GPU : Ground Power Unit (地上動力供給装置)

当社を取り巻く状況



既存事業の基盤強化と成長事業領域への進出による 質・量両面での企業価値向上

成長戦略の推進

収益力の拡大

売上高
営業利益率

- ▶ 技術力・営業力強化、お客様の信頼獲得等による売上拡大
- ▶ コスト削減活動・生産性向上活動の推進による利益率改善
- ▶ 新規業務領域の開拓と海外への事業展開
- ▶ 教育・訓練の充実

航空イベントリスク耐性強化

空港外売上比率
自己資本比率

- ▶ 空港外売上比率の向上 (FY14 5%→FY19 20%)
- ▶ 新規事業領域の積極的な開拓と事業の早期安定化
- ▶ 自己資本比率50%以上の堅持

環境社会への貢献

CO₂排出量

- ▶ エコエアポートへの貢献
→ GPU使用率向上によるCO₂排出量削減
- ▶ 空港会社との連携強化
- ▶ 環境への取り組み活動強化

事業内容の概要

- 空港内での事業に軸足を置いた事業運営を行っており、お客様である航空会社や空港会社より高い信頼を得ています
- 空港で培われた高い技術力などを活かし、空港外業務の拡大を図っています



FY15 売上高に占める割合 44%



**航空機が必要とする電力・冷暖房・圧搾空気の供給および、
動力供給設備の設計・施工、運用管理等**

- 国内9空港（成田、羽田、関西、新千歳、大阪、福岡、那覇、神戸、広島）に当社動力施設を展開。中部空港は保守管理。
- 航空機用電源車・エアコン車等の開発を支援
- 動力供給設備・機材を運用・保守管理

固定電力設備298台、固定空調設備149台、電源車91台、エアコン車35台、エンジンスターター10台（2015年度末現在）

FY15 売上高に占める割合 **27%**



旅客搭乗橋、手荷物搬送設備、物流倉庫搬送設備など、 空港内外の特殊設備の整備および保守管理

- 旅客搭乗橋(PBB)、手荷物搬送設備(BHS)の長期整備計画の企画・立案、並びに運用・保守管理

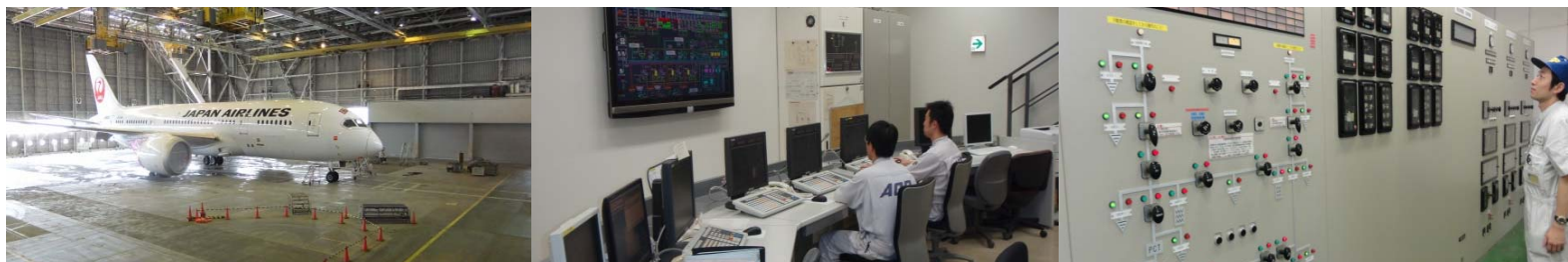
大規模自動仕分装置設置空港：成田空港、関西空港、中部空港、羽田空港

- P B Bの保守管理および運転操作教育

成田空港85基、関西空港54基、中部空港30基

- B H S ・ P B B 設置工事施工管理、B H S ・ P B B 保守仕様・要領書等策定
- 物流センターの搬送システムの保守点検、修理作業

FY15 売上高に占める割合 15%



航空機格納庫、貨物上屋、機内食工場、排水処理施設、冷熱源供給設備、特高変電所、ホテルなど空港内外の諸施設の整備および保守管理

- 施設・設備の長期修繕計画・整備計画の企画・立案
主に空港内における航空会社ビル、航空機格納庫、装備品・エンジン整備工場、貨物ビル、機内食工場、空港外物流センター等の施設管理
- 特高（高圧）受変電設備、無停電電源設備、大型ボイラー・冷凍機、空調設備、衛生設備等の保守管理
- 電気設備、機械設備の修繕・改修・整備工事

FY15 売上高に占める割合 **4%**

空港の安全を支える 重要な保安機器をメンテナンス

航空機に預る手荷物の検査を手荷物搬送設備のコンベア上で自動的に行う
(インラインスクリーニングシステム) 検査装置の保守管理業務



世界の検査機器に対応する技術

空港内外セキュリティ機器の保守管理業務

- X線検査装置 (309台)
- 金属探知器 (120台)
- 爆発物検知装置 (200台)
- 液体物検査装置 (25台)

FY15 売上高に占める割合 4%

国内シェアNo.1、約4300台の販売実績（2016年3月末累計）
旺盛なリピート需要（リピート率 約80%）の取り込みと新規市場の開拓
海外市場への展開、事業領域の拡大

エコ・省エネ

加熱した食器だけの電気を消費

2. 副菜



1. 主菜

3. 汁椀

メニューに応じて加熱時間・火力（IH）を調整することが可能。温かいものは温かく、冷たい物は冷たいまま自然な食器レイアウトで食事を提供。

**AGPの
フードカート**

**食器だけ
ピンポイント
加熱**

熱風式カート

庫内全てを
熱風で加熱



省スペース

機内食の技術を活かした
省スペース



女性でも扱いやすい大きさと軽さで作業効率と安全性を向上。厨房のカート占有面積が少なく、省スペースが特徴。

(当社調べ)

**AGPの
フードカート**

**1台1年の電気代
1/5 以下**

熱風式カート

**AGPの
フードカート**

**カート入スペース
1/2以下**

熱風式カート

ビジネスジェット支援事業



首都圏初、成田空港でビジネスジェット専用ハンガーを2015年2月に開設
当社ハンガーを使用したビジネスジェット支援事業を展開

事業内容

- 駐機スペースの提供 (広さ7,655㎡)
※ プライバシーを確保
- 地上ハンドリング業務、機材提供
 - ・ 航空機電源供給サービス
 - ・ クリーニング・サービス (機体内外)
 - ・ トーイング・サービス (機体牽引移動)
 - ・ クルー等送迎サービス
 - ・ 窒素 (N2)補充サービス
 - ・ 給排水サービス → 準備・検討中
 - ・ 機体整備支援サービス → 準備・検討中
 - ・ その他 (部品管理等) → 準備・検討中

写真：トーイング・サービス



写真：クリーニング・サービス (フライトワーク)



- ・ 2015年2月1日より駐機スペースの提供ならびに航空機電源供給サービスを開始
- ・ 8月20日よりトーイング・サービスを開始、計10機、46回のトーイングを実施
- ・ 9月20日よりクリーニング・サービスを開始、計6機、13回の機体クリーニングを実施
- ・ 2月1日よりクルー等送迎サービス、航空機タイヤへの窒素 (N2) 補充サービスを開始

重点 施策

- 大型駐機スペースを最大限活かし、多くのビジネスジェットを誘致
- 本邦で競合の少ないクリーニング・サービスを成田空港を拠点に事業拡大

低カリウム野菜販売事業 [ドクターベジタブルジャパン (DrVJ)]

安全・安心レタスで笑顔の食卓づくりをお手伝い

野菜の生育に必要なカリウム含有量を一般レタスの20%以下に削減。
カリウム制限※のある方も安心して新鮮な生野菜をお召し上がりいただくことが可能。

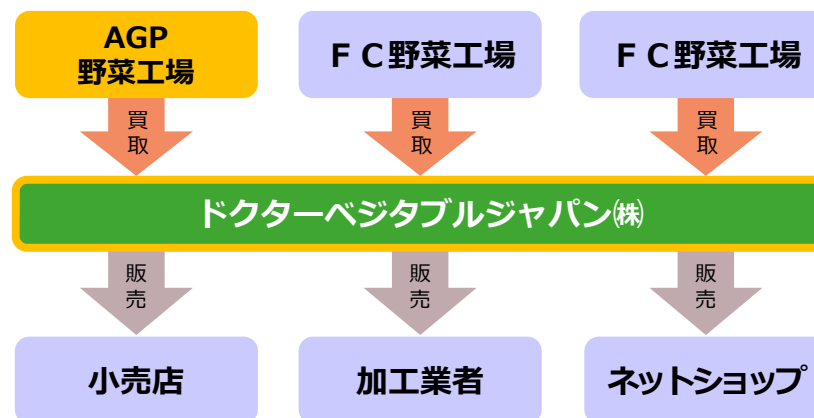
※重い腎臓疾患をお持ちの患者さんは厳しいカリウム摂取制限を受けています



昨年3月の営業開始（会津富士加工(株)より営業権の引継ぎ）以降、低カリウムレタス取扱店舗が3月末時点で1,050店舗に到達。今後、更なる店舗開拓を目指す。

 **Dr. Vegetable**[®] ドクターベジタブル <http://www.drvegetable.jp/>

<販売店舗数推移>
(単位：店)



現行 日産3,200株 DrVJによる販売量の増加に合わせた増産を計画

完全閉鎖型&完全人工光型植物工場である横芝光植物工場で生産するレタスの特徴は以下

低カリウム

腎臓病患者の方も安心で

農薬不使用栽培

苦味・エグミが少なく

低生菌数

水洗い不要で鮮度が長持ち



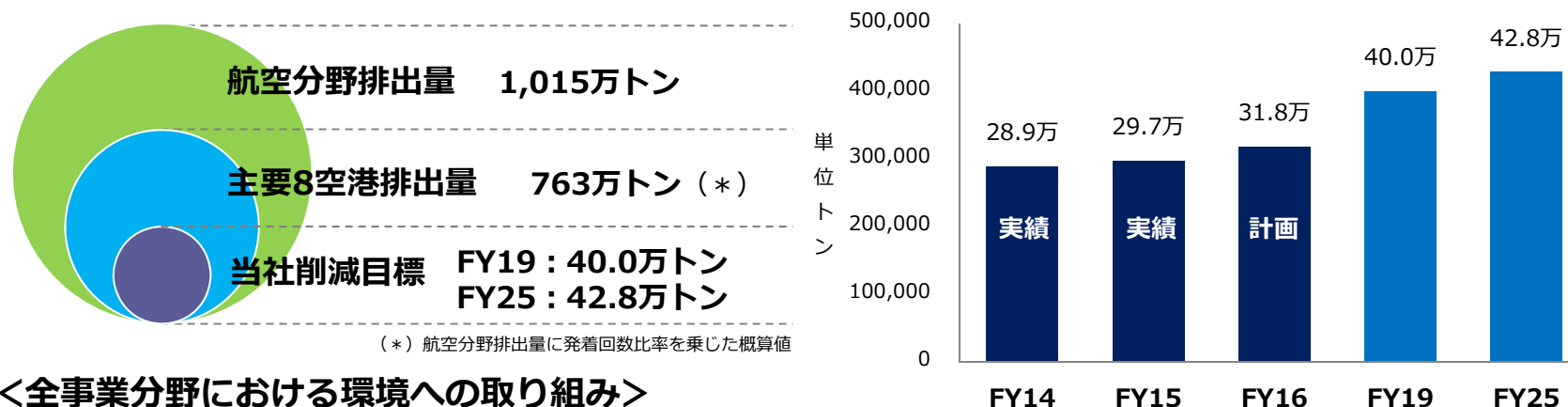
事業内容：低カリウムレタス Dr.Vegetableの生産
所在地：千葉県山武郡横芝光町
営業開始：2014年8月
生産規模：低カリウムレタス 4,000株/日
従業員：20名 (パート従業員含む)

環境への取り組みと目標

GPU利用促進により、主要空港のCO₂排出量の2016年度削減目標は31.8万トン。

【中期期間目標】2019年度までに2014年度対比10.7万トン削減

＜航空分野CO₂排出量に対する当社削減目標＞



＜全事業分野における環境への取り組み＞

- 動力事業**
 - 空港・空港周辺における更なる環境負荷削減策として
 - 電気自動車 (EV) の導入促進と燃料電池自動車 (FCV) の研究
 - 省エネ機材の促進や再生可能エネルギー等の新技術導入
- 整備・施設・セキュリティ事業**
 - 省エネ運転や省エネ部品の提案及び導入、部品交換回数の削減等
 - CO₂を削減する太陽光発電の保守業務への参画
- フードカート事業¹**
 - 省エネ、省スペースが特徴のAGPフードカートの販売
- 新規事業**
 - 完全閉鎖型工場における無農薬、低生菌、無洗、長持ちの低カリウムレタスの生産

¹ FY16より「フードシステムソリューション事業部」に事業部名称変更

当社の技術力



機械、電気・制御系の幅広い基礎知識・技能、専門資格を保有。

- 国家資格
- 労働安全技能講習資格、特別教育受講、特殊運転免許証、メーカーライセンス

資格名称	保有者
電気主任技術者	48
電気工事士	373
電気工事施工管理技士	45
管工事施工管理技士	25
エネルギー管理士	37
ボイラー技士	165
高圧ガス製造保安責任者 (冷凍保安責任者)	279
危険物取扱者	334
X線作業主任者	112
消防設備士	54
建築物環境衛生管理 技術者	31
昇降機検査資格者	15
衛生管理者	33

資格名称	保有者
酸素欠乏作業主任者	291
有機溶剤作業主任者	77
特定化学物質等作業主任者	36
小型移動式クレーン 運転技能	207
フォークリフト運転技能	381
高所作業車運転技能	373
玉掛技能	269
足場組立作業主任者	84
ガス溶接技能	303
アーク溶接特別教育	403
研削といし特別教育	329
大型自動車運転免許	415
けん引自動車運転免許	50

資格名称	保有者	
X線検査装置 メーカーライセンス	Smiths	15
	IHI	9
	Astrophysics	1
	Rapiscan	2
爆発物検知装置 (EDS*)	L3 : VIS, Examiner	26
	メーカーライセンス	
メーカーライセンス	Reveal : CT, DR+	11
	Morpho : CTX	5
金属探知器 メーカーライセンス	Ceia : PMD, HIPE	8
	メーカーライセンス	
爆発物検知装置 (ETD*)	Smiths : 400B, 500DT, MMTD	6
	Morpho : Itemiser DX	29
	メーカーライセンス	
メーカーライセンス	Implant Sciences : QS-B, H150	5

個人平均資格取得数：約10資格* / 人

* 2016年3月末現在、但し、期中入社社員を除く

* EDS: Explosives Detection Systems
* ETD: Explosives Trace Detection Systems

2015年度 業績概要

- 売上高、経常利益は上場以来過去3番目に高い水準。
- 対前年で増収増益、営業利益率は10%に向け着実に改善、自己資本比率は50%を超え健全な財務体質を堅持。
- 動力事業における更なる供給率の向上、新規事業における販路拡大など空港外売上拡大に向けた営業力の強化が、今後の主な課題。
- 50周年の記念配当を含め、今期の配当は10円を予定。

2015年度業績サマリー



連結損益計算書

(単位：百万円)

(百万円)	2014年度	2015年度	増減額
売上高	10,671	11,582	+911
営業費用	9,892	10,694	+802
営業利益	778	887	+109
営業利益率 (%)	7.3%	7.7%	+0.4pt
経常利益	860	902	+41
当期純利益 ¹	469	547	+78

連結キャッシュフロー計算書

(単位：百万円)

(百万円)	2014年度	2015年度	増減額
営業キャッシュフロー	1,265	1,219	▲46
投資キャッシュフロー	▲1,385	▲501	+883
フリーキャッシュフロー	▲119	717	+837
財務キャッシュフロー	▲439	▲289	+150
EBITDA ³	1,688	1,726	+38

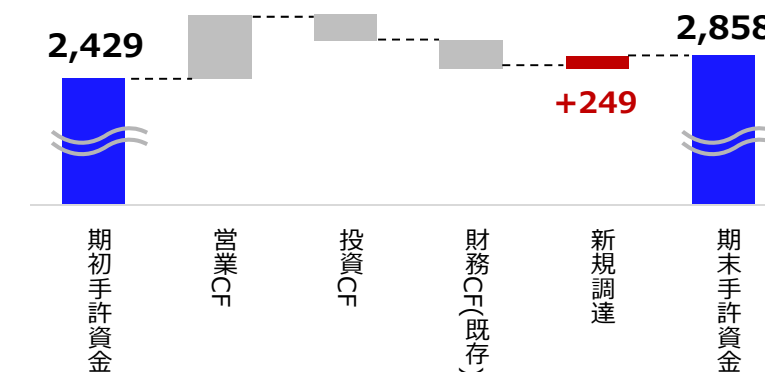
連結貸借対照表

(単位：百万円)

(百万円)	2014年度	2015年度	増減額
総資産	12,131	12,785	+653
有利子負債残高	1,863	1,704	▲159
自己資本	6,758	7,058	+299
自己資本比率 (%)	55.7%	55.2%	▲0.5pt
ROE (%) ²	7.2%	7.9%	+0.7pt

(手元資金増減)

(単位：百万円)



自己資本比率50%以上を維持し、財務の安定性を確保

- 1 当期純利益は親会社株主に帰属する当期純利益を用いて計算
- 2 (当期純利益*) / (期首・期末平均自己資本)
* 当期純利益は親会社株主に帰属する当期純利益を用いて計算
- 3 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

2015年度業績サマリー(当初計画対比)



連結損益計算書

(単位：百万円)

(百万円)	2015年度 当初計画	2015年度 実績	増減額	特記
売上高	12,000	11,582	▲417	低カリウム販売▲286、フードカート▲154他
営業費用	11,200	10,694	▲505	電力料▲109、減収に伴う原材料費減 他
営業利益	800	887	+87	
営業利益率 (%)	6.7%	7.7%	+1.0pt	
経常利益	780	902	+122	受取補償金+31
当期純利益	460	547	+87	

売上高は、新規事業として開始した低カリウムレタス販売やフードカート販売などの空港外売上が当初見込みを下回ったこと等により、約4億円の減収となったが、原油価格の下落による原材料費の減少や既存事業の利益率改善が寄与し、営業利益は対計画で+87百万円、経常利益は対計画で+122百万円、当期純利益は対計画+87百万円とそれぞれ計画を上回った。

結果、新規事業が損失となっているにも関わらず、営業利益率は計画値6.7%を上回る7.7%となった。

なお、配当は10円配当(配当性向25%)を実施予定。

2015年度事業別売上高



<事業別売上>

(単位：百万円)

	2014年度	2015年度	増減額	特記事項
動力事業	4,959	5,069	+110	需要(供給機会)+3%、供給率は前年並み(63%)
整備事業	3,028	3,083	+55	空港特殊機械整備工事の増加等
施設事業	1,534	1,764	+229	施設老朽化に伴う大口の設備工事等
セキュリティ事業	394	413	+19	保守領域の拡大
フードカート事業 ¹	323	495	+172	フードカート販売台数350台(対前年+171台)
新規事業	43	350	+307	低カリウムレタス販売店舗数1,050店舗(前期末470)
その他事業	386	404	+17	
合計	10,671	11,582	+911	

1 FY16より「フードシステムソリューション事業部」に事業部名称変更

**事業別売上は、すべての事業で対前年で増収。
航空需要が堅調なことから、航空会社、空港会社からの売上は着実に増加。
フードカートや新規事業等、空港外事業については、計画対比では当初想定を下回ったものの、対前年では増収。**

2015年度営業費用



(単位：百万円)

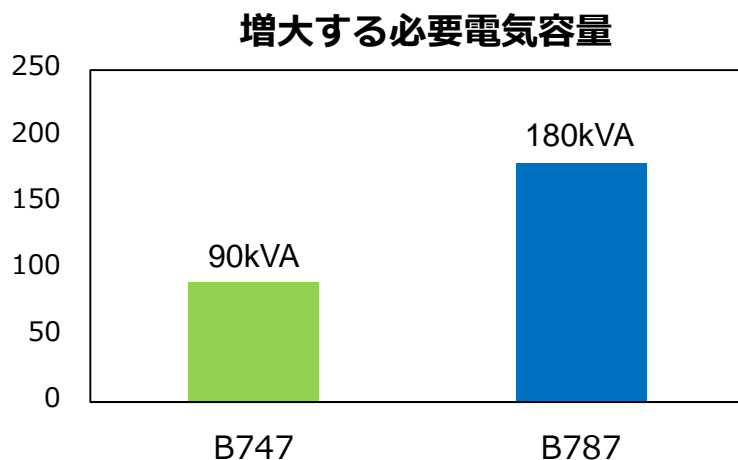
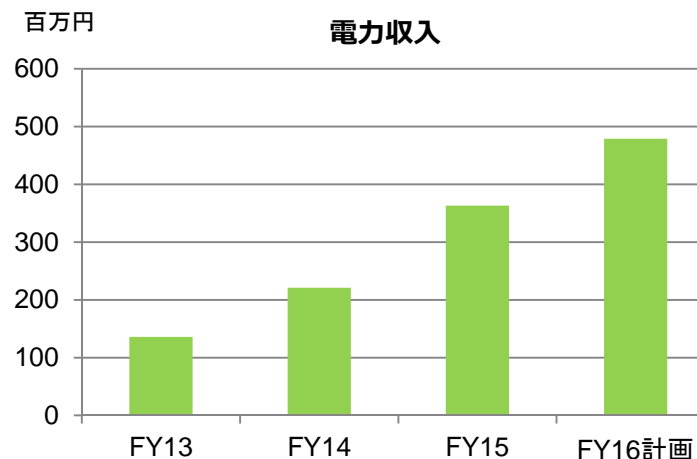
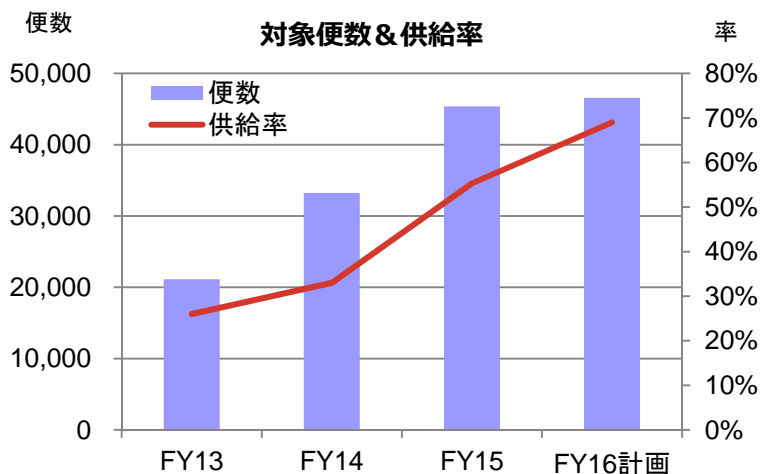
	2014年度	2015年度	増減額	特記事項
労務費	3,934	4,103	+168	従業員数 前期末609人→今期末622人、賞与増等
減価償却費	909	838	▲71	
電気代	913	848	▲64	原油価格下落や新電力の切り替え等により単価減
その他	4,136	4,905	+769	
合計	9,892	10,694	+802	

新規事業を始めとする事業拡大等により営業費用は増加。
他方、営業利益の確保を図るため、費用抑制に向けた全社的な取り組みを推進し、約70百万円の費用削減効果を実現。

【動力】最新鋭機B787への対応



B787への供給率は前年対比で上昇 (データはJAL社、ANA社のみ)



オール電化機材への対応



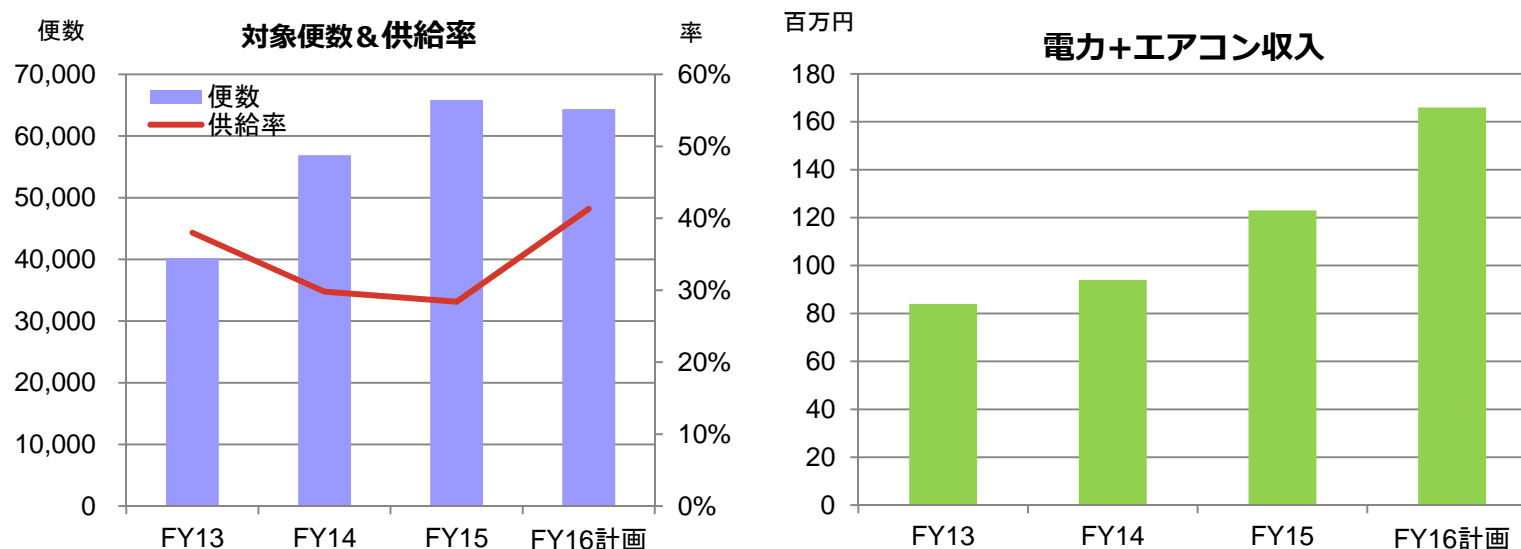
増大する必要電源対策として航空機用電源設備の大容量化 (180kVA機材の配備)

- 移動機材：6拠点配備済 (合計24台配備)
- 固定設備：NRT(25台)・HND(36台)
ITM(1台)・KIX(2台) 設置済

【動力】 LCC航空会社への対応

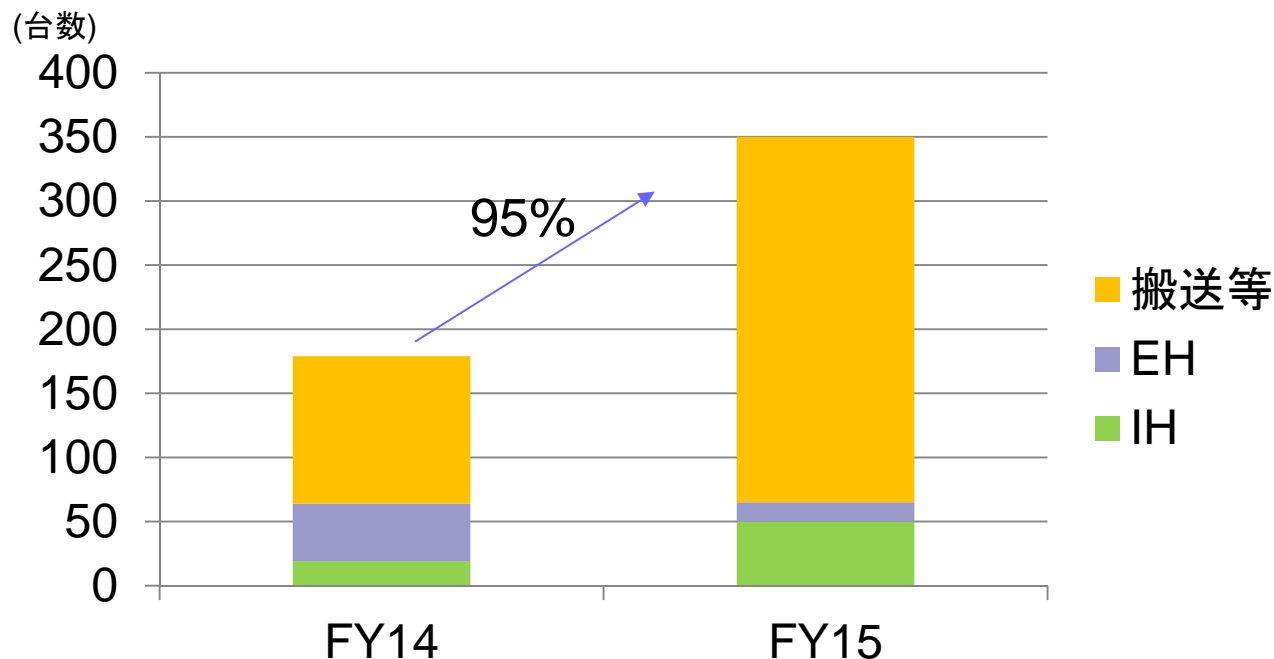


- 国内社LCC売上高 対前年132%



- 国内LCC4社に加え、新生エアアジア・ジャパン社と契約締結
- 外航LCCに対しても個別アプローチに加え、JAL、ANAを含むグランドハンドリング受託会社を經由した営業を展開中

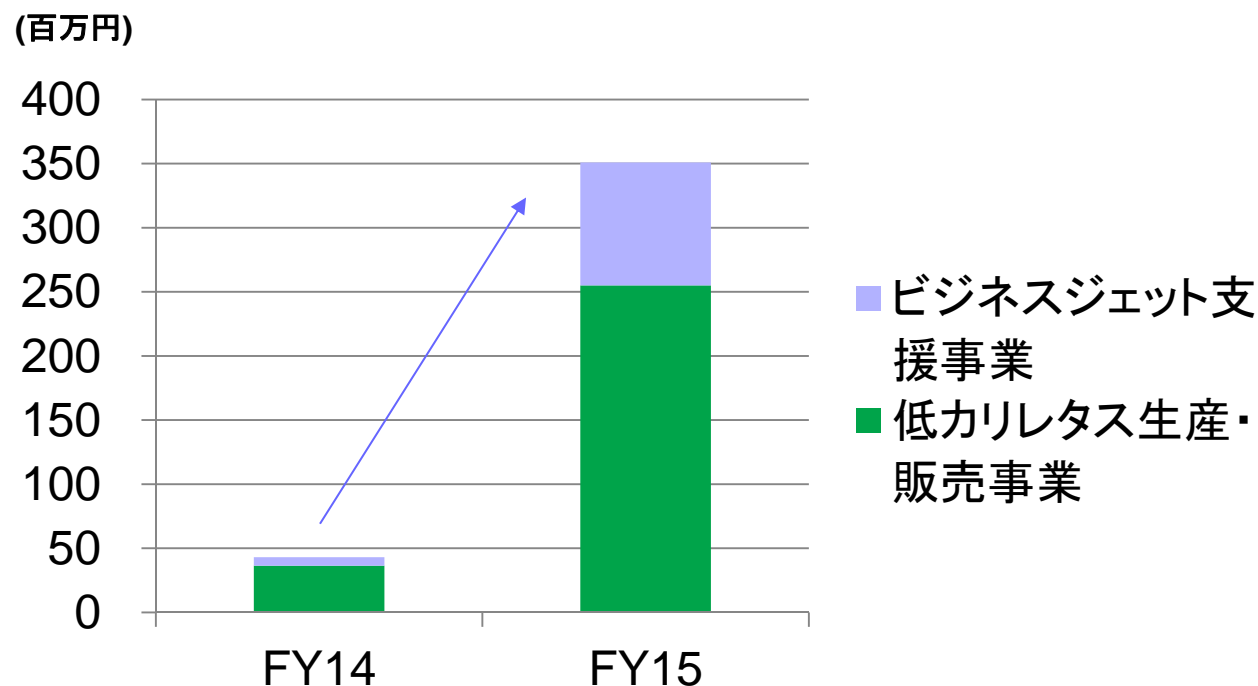
フードカート販売状況



2015年度のフードカート販売台数は対前年95%の増加。
「クックチル方式」で、おいしさそのままお届け可能な電磁誘導加熱(Induction Heating)技術を応用したチルド庫対応(再加熱冷蔵室)再加熱カート(IHカート)が販売好調であり、IHカートの販売を更に促進する計画。

- 1 EH : チルド帯での保冷機能を備えた再加熱カート
- 2 IH : 電磁誘導加熱(Induction Heating)技術を応用したチルド庫対応(再加熱冷蔵室)再加熱カート

新規事業売上高



ビジネスジェット支援事業は契約機数の増加やクリーニングサービス等の開始により順調に事業拡大中。営業利益は確保。

低カリウムレタス・生産販売事業は、店舗数の拡大ペースが当初計画を下回ったものの、現状の販売店舗拡大ペースに合わせた生産・販売計画を策定し、事業を拡大中。営業利益の黒字化は2018年度を予定。

2016年度 業績予想

- 2016年度も、対前年での増収増益、営業利益率の改善と自己資本比率50%以上を達成する計画。
- 新規事業を含む空港外売上は更に拡大する計画。
- 設備投資は営業キャッシュフローにて賄う計画としているが、状況に応じ、中期経営計画で2017年度に予定した借入の前倒しを検討。
- 配当は安定配当を継続し10円を計画。

「長期ビジョン2025」「中期経営計画」の着実な実行

事業戦略

動力事業

【市場浸透戦略】

- ANA、外航、LCCへの販売強化・戦略的パートナーとの協業
→ エコエアポートへの協力を通してFY16は供給率66%(FY15対比+3pt)を目指す
- 航空会社、空港会社のニーズを踏まえた積極的な設備展開

整備事業・ 施設事業・ セキュリティ事業

【市場開拓戦略】

- 空港外への展開
- 提案型・総合サービス提供型へのビジネスモデル転換と新たな人員リソースの活用

フードコート事業²

【新商品開発・市場開拓戦略】

- リピート需要の確実な取り込み
- サ高住¹などの新規お客様の開拓
- 製品の認知度向上と事業領域の拡大

新規事業

【多角化戦略】

- 技術力を活かした成長領域への積極展開
- 低カリウムレタス生産・販売事業の販路拡大と早期経営安定化

1 サービス付高齢者向け住宅

2 FY16より「フードシステムソリューション事業部」に事業部名称を変更

2016年度収支・資金計画



連結損益計算書

(単位：百万円)

(百万円)	2015年度	2016年度 計画	増減額
売上	11,582	12,600	+1,017
営業費用	10,694	11,600	+905
営業利益	887	1,000	+112
営業利益率 (%)	7.7%	8.0%	+0.3pt
経常利益	902	990	+87
当期純利益 ¹	547	560	+12

連結キャッシュフロー計算書

(単位：百万円)

(百万円)	2015年度	2016年度 計画	増減額
営業キャッシュフロー	1,219	1,259	+40
投資キャッシュフロー	▲501	▲1,704	▲1,203
フリーキャッシュフロー	717	▲445	▲1,163
財務キャッシュフロー	▲289	▲527	▲237
EBITDA ³	1,726	1,863	+137

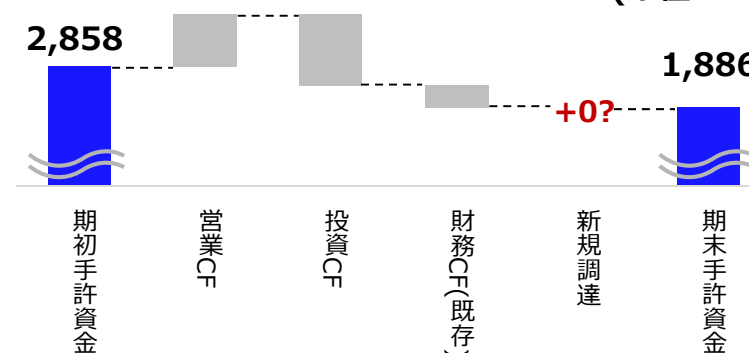
連結貸借対照表

(単位：百万円)

(百万円)	2015年度 ¹	2016年度 計画	増減額
総資産	12,785	14,130	+1,344
有利子負債残高	1,704	1,320	▲384
自己資本	7,058	7,450	+391
自己資本比率 (%)	55.2%	52.7%	▲2.5pt
ROE (%) ²	7.9%	7.7%	▲0.2pt

(手元資金増減)

(単位：百万円)



自己資本比率50%以上を維持し、財務の安定性を堅持

- 1 当期純利益は親会社株主に帰属する当期純利益を用いて計算
- 2 (当期純利益*) / (期首・期末平均自己資本)
* 当期純利益は親会社株主に帰属する当期純利益を用いて計算
- 3 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

2016年度事業別売上高



動力事業を始めとした既存事業の増収と空港外売上拡大に向け、
営業力・販売体制を強化

<事業別売上>

(単位：百万円)

	2015年度	2016年度	増減額	特記事項
動力事業	5,069	5,430	+360	航空需要の増加、供給率63%→66%
整備事業	3,083	3,090	+6	空港外業務の増加
施設事業	1,764	1,800	+35	設備老朽化に伴う整備工事増
セキュリティ事業	413	400	▲13	定期点検の減少
フードカート事業 ¹	495	900	+404	営業力強化による顧客開拓
新規事業	350	500	+149	低カリレタス販売店舗の拡大
その他事業	404	480	+75	
合計	11,582	12,600	+1,017	

事業環境が良好な空港内既存事業の増収を図りつつ、フードカートや新規事業等、空港外事業を更に大きく拡大し、売上高126億円を目指す。

1 FY16より「フードシステムソリューション事業部」に事業部名称変更

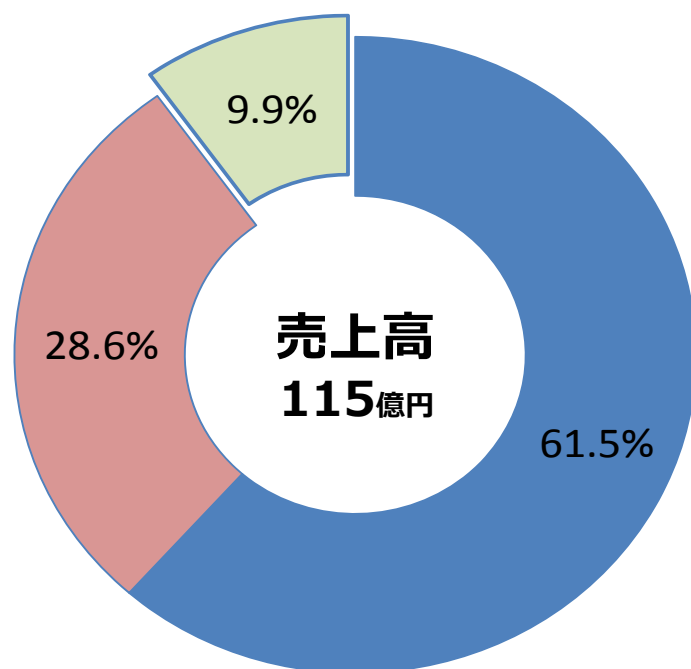
空港外売上割合



航空会社・空港会社などの既存のお客様以外の取引(フードコートや新規事業など)を中期目標20%に向けて拡大中

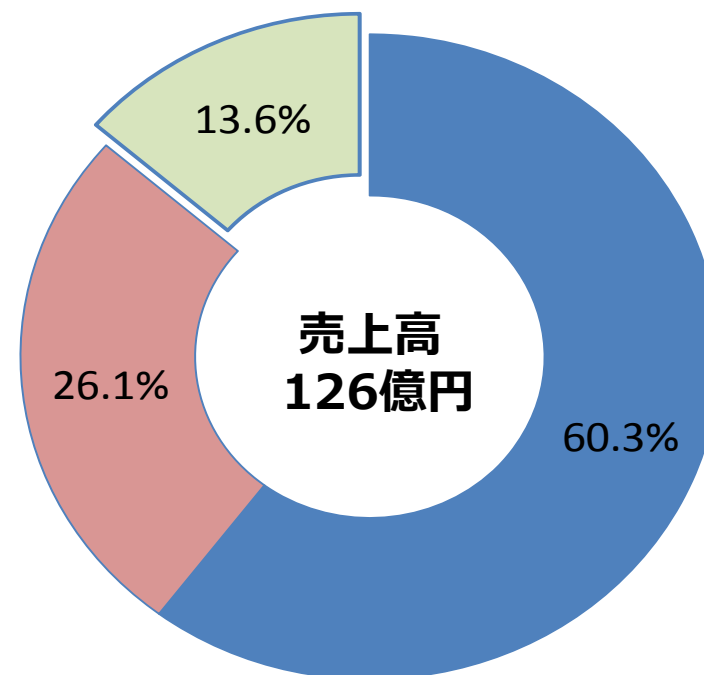
<FY15売上割合>

■ 航空会社 ■ 空港会社 ■ 航空・空港以外



<FY16売上割合>

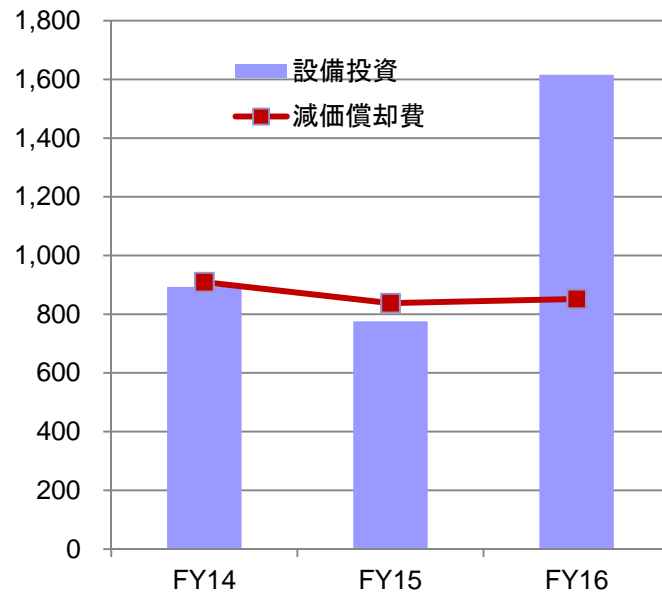
■ 航空会社 ■ 空港会社 ■ 航空・空港以外



投資

<設備投資>

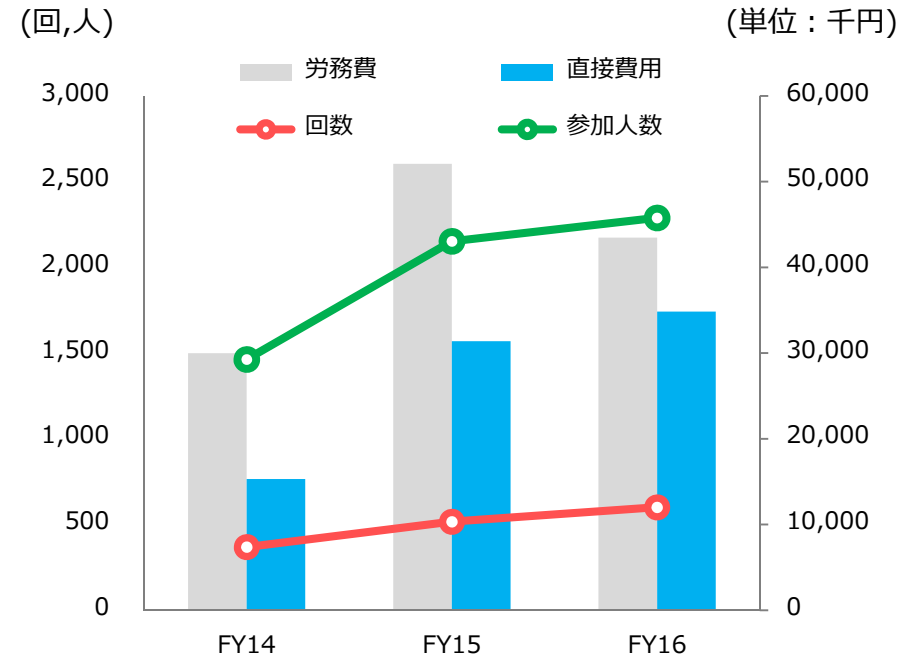
(単位：百万円)



2016年度は福岡空港、沖縄空港のターミナル改修工事に伴う設備投資を予定。
動力設備の能力増強(180KVA化)を積極的に推進し、事業基盤の強化を図る計画。

<教育訓練投資>

(回,人)



2015年度より、技術力を極めるため、教育訓練を充実。
2015年度の教育訓練費の実績(労務費+直接費用)は約80百万円。

中期経営計画(FY15-19) 進捗状況

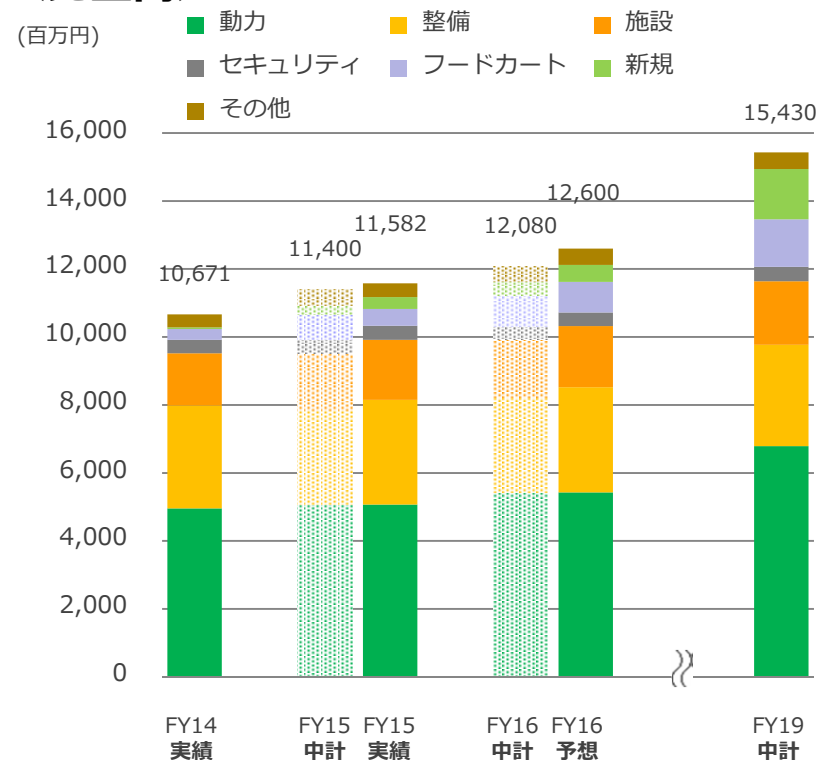
- 航空需要の増加や環境意識の高まりはビジネスチャンス。
- 中期経営計画で掲げたグループ経営数値目標の達成に向け、足元では増収増益、営業利益率は改善。中期経営計画の進捗は概ね順調。
- CO2排出量の削減については、エコ・エアポートへの参画などを通し環境社会への貢献を一層強化し、目標達成を図る計画。
- 2014年度から開始した低カリウム野菜の生産・販売事業の営業損失については、黒字化に向けた取り組みを推進中。今後、新規事業の収支改善等を通し、目標とする営業利益率10%以上を目指す計画。

中期経営計画進捗状況



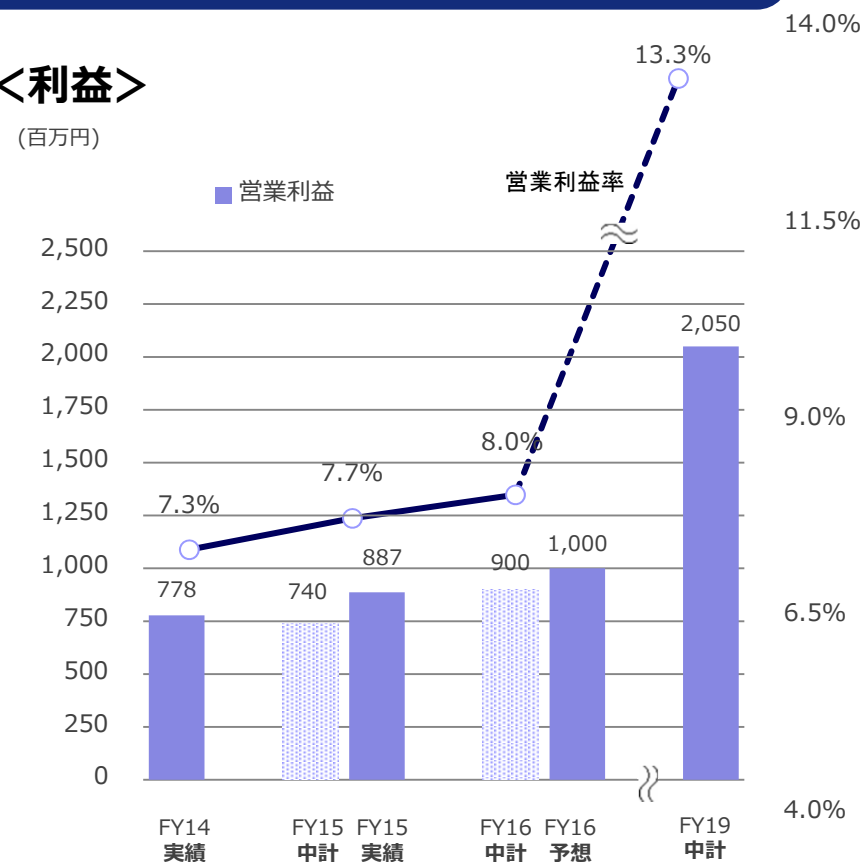
2015年度の売上高は業績予想(2015年5月発表)対比では未達であったものの、中期経営計画(2015年1月発表)対比では、売上高・営業利益・営業利益率とも計画を上回り、概ね順調な滑り出し。2016年度も中期経営計画値を上回る業績を予想。

<売上高>



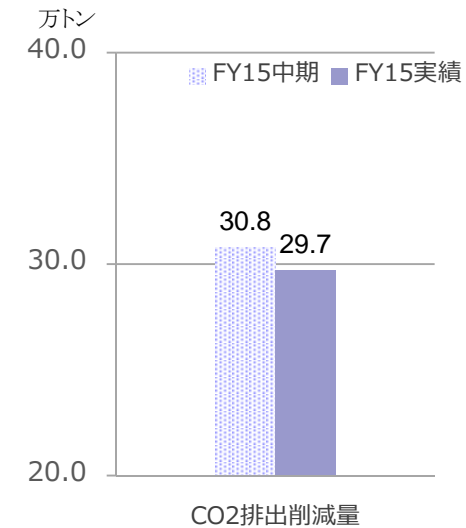
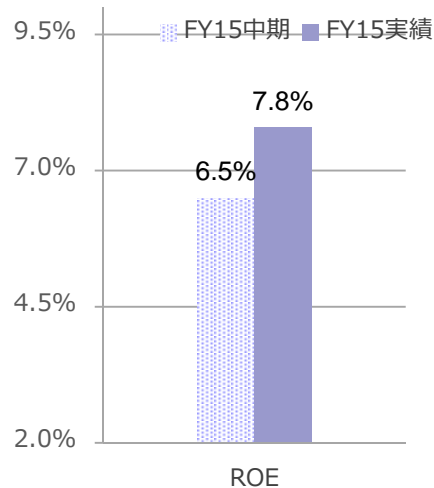
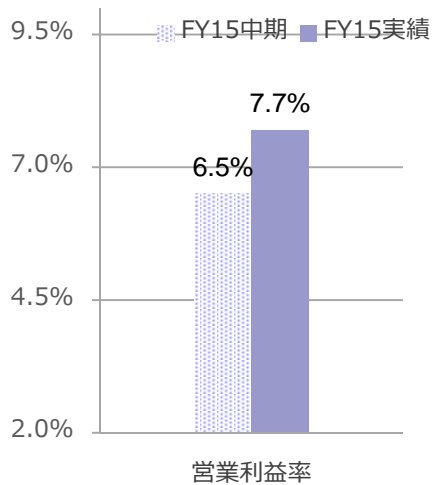
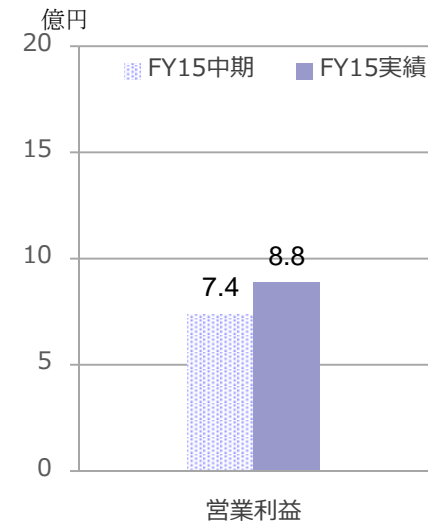
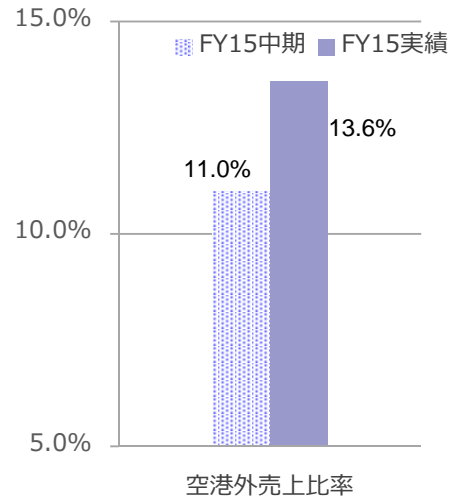
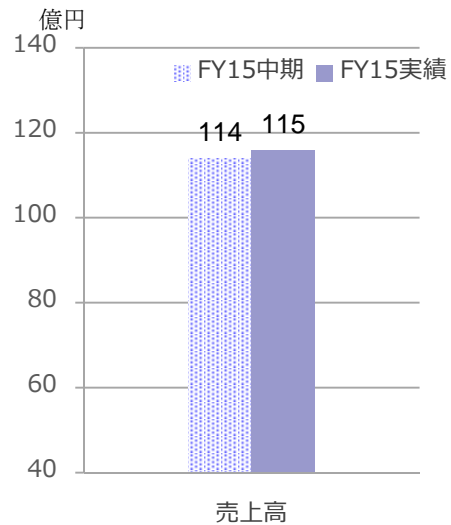
(注) FY15中計、FY16中計、FY19中計は2015年1月発表の中期経営計画値。

<利益>



FY15の営業利益率7.7%は実績値、FY16の営業利益率は会社予想値 (2016.5.13公表)

FY15時点の中期経営計画値との比較



グループ経営数値目標



	FY19時点目標値	FY25時点目標値
連結売上高	150億円	200億円
連結営業利益率	10%以上	
自己資本比率	50%以上	
ROE*	10%以上	

*主として、利益率改善（営業利益率10%以上）を達成することを通して、ROE10%以上を達成する計画

	FY19時点目標値	FY25時点目標値
空港外売上比率	20%	30%
CO2排出量の削減	40.0万t	42.8万t

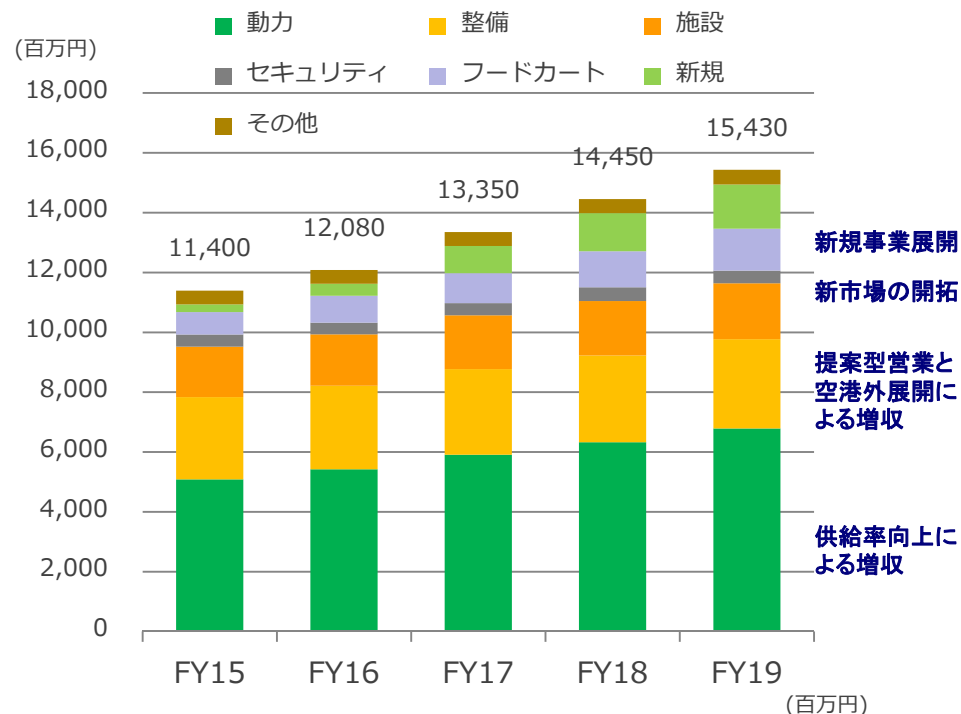
(参考資料)

FY15-19 中期収支計画

(2015.1.19発表)

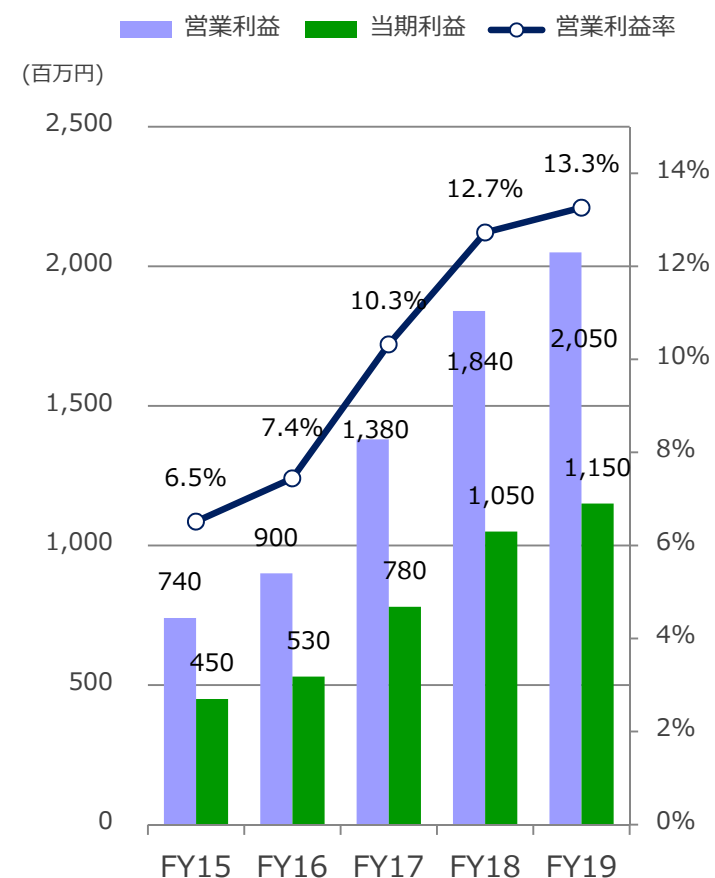


<売上高>



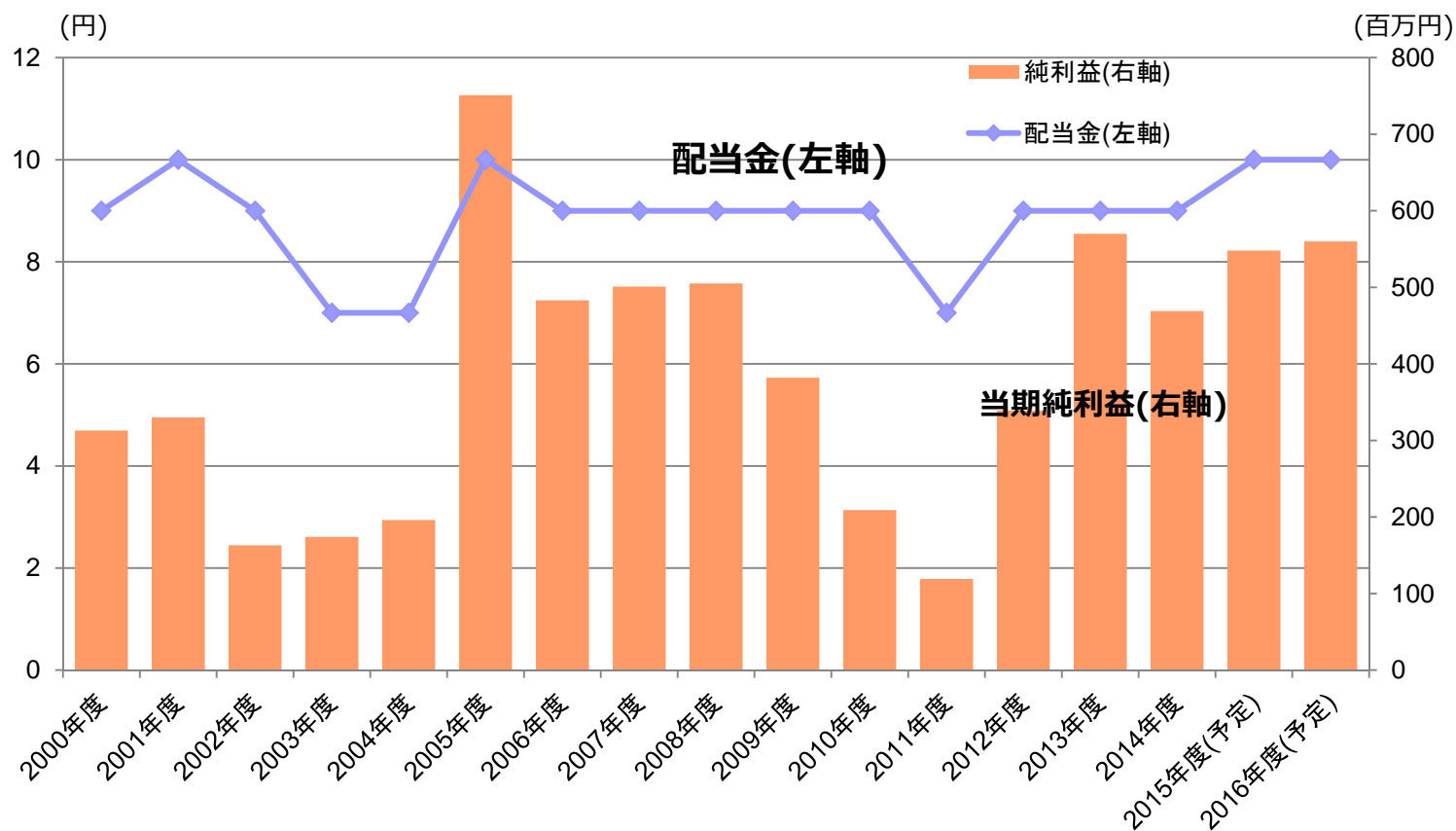
	FY15	FY16	FY17	FY18	FY19
売上高合計	11,400	12,080	13,350	14,450	15,430
(動力事業)	5,085	5,423	5,911	6,325	6,787
(整備事業)	2,750	2,795	2,863	2,900	2,985
(施設事業)	1,685	1,714	1,797	1,821	1,869
(セキュリティ事業)	405	391	404	461	423
(フードカート事業)	750	900	1,000	1,200	1,400
(新規事業)	259	398	908	1,275	1,475
(その他)	458	462	469	470	493

<利益>



安定的な配当の実施

- 2001年の上場以来、赤字決算・無配は無し。
- 9円程度の安定配当を継続。



環境への取り組み 事例紹介



🍀 エコ・エアポート活動

※「エプロン清掃」と「エコドライブ」は、全支社・支店 実施項目



千歳 キッズ教室(エコ教育)



成田 エコキッズ(GPU見学)



羽田 支社事務所照明LED化



中部 エプロン清掃



伊丹 エプロン清掃



関空 エプロン清掃

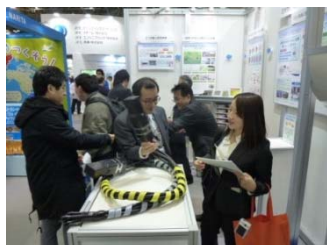


沖縄 地域環境活動の参加



福岡 エプロン清掃

🍀 エコプロダクツ2015出展(空港ブース内)



東京ビッグサイト (2015年12月10日[木] ~ 12日[土])



🍀 空港周辺地域での環境貢献活動



第7回 大田スポーツGOMI拾い大会にて



環境格付の取得

2016年1月に実施した借入と融資枠設定では、当社の環境への取組みが高く評価された**環境格付**を取得しています。

- 三井住友銀行からは、S M B C環境配慮評価融資における評価を取得した借入を1億円実施しています。
- 日本政策投資銀行では、金融マーケット環境の一時的な変化や自然の猛威による不測の事態に伴う資金ニーズにも適切に対応していくための融資枠として、DBJ環境格付コミットメント融資枠（エコライン）を1億円設定しています。



当社は、平成28年1月日本政策投資銀行（DBJ）より環境格付融資を受け、格付結果は「環境への配慮に対する取組みが十分」と評価されました。

当資料に記載されている事業名は、弊社の連結財務諸表又は個別財務諸表においては、現時点での事業の性格、量的な重要性等を勘案し、整備事業と施設事業をまとめて整備事業、セキュリティ事業、フードシステムソリューション事業（フードカート事業）、新規事業、その他をまとめて付帯事業として報告しています。

当資料は、弊社の現在の計画、見積り、戦略、確信に基づく見通しについての記述がありますが、これらは現在入手可能な情報から得られた弊社の判断及び仮説に基づいています。

当資料に記載されている将来の業績予想は、技術、需要、価格、経済環境の動向により変化が発生する可能性があり、将来における弊社の業績は当資料に記述された内容と大きく異なる可能性があります。従って、弊社が設定した目標は、全て実現することを保証するものではありません。

お問合せ先



株式会社エージーピー 経営企画・財務部

電話:03-3747-1638

FAX:03-3747-0707

URL: <http://www.agpgroup.co.jp>

(会社案内ビデオがご覧いただけます)